桂坂

20030407
[02・07]
総92号

発行
桂坂
自治連合会
広報編集部

自由な雰囲気のただようまち
便利で住みよい、安全・安心のまち――を求めて

桂坂自治連合会など 総会 開かる

「年年歳歳 花 相似たり」――自然界は今や桜の盛りを迎え、私たちの目を楽しませてくれます。が、とりまく国際情勢は「人の叡智よ いづこ」と慨嘆せざるをえない様相を呈し、国内の状況にしても、一寸先の曙光さえ全くうかがえないありさまです。じっと息を潜めて待つ外ないのでしょうか。

この桂坂は今、総会の季節。各自治会、各種団体では、新年度に向けて役員改選や年次計画の承認・議決の総会が開かれています。

桂坂自治連合会、自主防災会、教育後援会等の各総会も、4月20日(日)、ふれあい会館第1研修室において開催されます。今年も、「自由な雰囲気のただよう・便利で住みよい・安全、安心のまち」を目指す「桂坂まちづくりの基本理念」に拠って、新年度の事業計画が発表されますが、内容は次号でお報らせします。

次に、学区内に見られる「便利で住みよい・安全、安心のまち」を願っての新しい動きをご紹介しましょう。

自治会活動が「ストレス解消の場」週末にうまいビールを飲むために

にれのき自治会

自治会のイメージといえば「めんどくさいな～！」「役やんのイヤやな～！」と、他人との関わりを避けがちな現代社会に、まるで逆行するようなコミュニティーと考えるのが普通ではないでしょうか。

そんな自治会が、疲れた大人たちのストレス解消に役立っています。

「しかし汚い公園やな～！今年は役やってる手前、何とかせなあかんな～」といった、自治会の会合帰りの会話がきっかけでした。

その公園（きさらぎ公園）は雑草が腰のあたりまで生えており、少々草を刈ったところで、しばらくすると雑草が顔を出す始末で、まったく効果は得られませんでした。

「まっ、こんなもんか」ここらが限界とそそくさと解散になるはずですが、ここからの展開がいつもと違いました。

お互いそれぞれの業界で鍛えられたノウハウがあり遊び心を持つ大人たちが知恵を絞り出したのです。

いろんな職種のスペシャリストによる除草道具の検討、肥料の選択、土の性質分析など、このパワーを仕事に活かせることができればとも思いますが、これが実に楽しい。

お互い、仕事とは全く関係がない立場で話をするので責任がなく、素直に何でも言い合えるのが良かったのかも知れません。

「雑草は根から掘り起こさないとまた出てくる」とのことから、ついには鶴ハシまで登場となりました。さらに梅の木に肥料をやったのですがこれが大成功！

週末には、梅の花を見に人が集まるようにまでなりました。「雑草に栄養分を吸い取られていたんやなぁ～」と苦労が報われた気分でした。

今では、ワイワイやっている変なおじさんたち（本当に子どもたちはそう思っているらしい）に「お手伝いしましょうか」と声をかけてくれる方もいます。

何だかんだで、今年の梅が特にきれいに見えるのは自分たちだけかもしれませんが、おかげでうまいビールを飲ましてもらえるのは本当の話です。

みなさんも一度、勇気を持って隣の人に声をかけてみてはどうですか？

「いい汗をかいた後のうまいビール」のきっかけを掴めるかもしれません。

ある日のこと、鶴ハシ片手に頭をかすめたのですが公園清掃に限らず、何でもかんでも行政に依頼する風潮はいかがなものかとも考えます。

今の日本、そんなに裕福ではないような気がするのですが・・・

4月13日 京都府議選・市議選 投票日

子どもの安全のために
こども110番のいえ
マップ改訂版を配布

この度、防犯推進委員会と桂坂小学校PTAとで、「こども一一〇番のいえマップ」の見直しを計りました。

今まで「こどもの家」がなかった地域の方がたの協力も得られ、新たに七軒増え、二四軒になりました。

警察へ登録の後、二四軒のお宅には、警察の方、小学校のPTA役員、防犯推進委員の三者で説明とお願いに回りました。緑のよく目立つ看板を新しいお宅に届けるとともに、以前のお宅では破損した看板を新しいものに取り換えました。

子どもたちのよく目につく場所に看板をかけていただくことができ、あまり利用することはなくても（その方がいいのですが）子どもたちには、心強い味方になると思います。

これからも、桂坂全体の防犯を考え、住みよい街づくりを目指していきたいと思います。

桂坂小学校ＰＴＡ
桂坂防犯推進委員会

「まちづくり」は自分たちの手で
ボランティアグループ
「桂坂花の輪の会」誕生

『桂坂社協だより』（3・31付）によると、桂坂に「花の輪の会」が誕生したそうです。

「花を育てることをみんなと楽しみたい」、そして「地域にふれあいの輪を拡げ」、だれもが「一緒に暮らしを楽しむ場をつくりたい」と願う、ボランティアの主婦二一人のグループ。呼びかけ人代表は桂坂「社協」の山口和枝さんです。

道路にしても、教育施設にしても、ハード面は行政が設置とその維持を担当します。しかし、それらを、私たちの暮らしに役立つよう、いかに上手に使うかとなると、やはり私たち住民一人ひとりの関わり方にかかってきます。

この桂坂を「安心して暮らせるまち、楽しく暮らせる、明るいまち」にしていくのは、しんどいことですが、私たち自身。

住環境を一層よくするために、あるいは文化の香り漂うまちづくりのために、今後とも様々なボランティアグループが名乗りをあげて、それぞれ活動を始めれば、桂坂も大いに活気づくことだろうと思います。

消火栓点検

桂坂消防分団
山口 敏和

平成13年10月より実施してきた学区内の三五六箇所の消火栓の点検を、平成15年2月23日にすべて完了しました。

バス通りでの点検は、一般車両が通行しているため俊敏に行わなければならないので、坂井副分団長が製作した三種類の新しい器具は、安全かつ俊敏な点検作業にかなり有効に利用できました。

点検の結果、不良箇所は無かったのですが、違法駐車で点検できない箇所が十数箇所ありました。

3月2日(日)深夜、御陵峰ヶ堂の火災では、三箇所の消火栓を利用しての消火活動でした。もし、その消火栓上に違法駐車があったとしたら、被害は拡大していたことは間違いないと思います。

「わが街は、我々で守ろう」のスローガンを忠実に守る第一歩として、消火栓上、防火水槽近辺での違法駐車は絶対にしないでください。

今後とも桂坂消防分団では点検・広報活動を続けてまいりますので、皆様のご協力、宜しくお願いいたします。

日文研学術講演会

日時 4月25日(金) 14：00～16：30
場所 日文研ホール
講演
Ⅰ「畏まりました・恐れ入ります」――日本修辞に於ける礼儀と恐怖の史的考察
マルクス リュッタ―マン昱研教授
Ⅱ 徳川幕府四百年
笠谷 和比古 昱研教授
受講料 無料 五〇〇名
申込先 日文研研究協力課 ☎335－2078

ふれあい会館案内

■ テーマ別介護講座
● 4月24日(木)
ベッドから起きよう［体位変換・起居動作］
● 5月8日(木)
さあ外へ出よう［歩行介助・車椅子の操作］

■ 健康増進室
健康チェック・体力測定・骨密度測定
閉館 日曜・年末年始
時間 9：30～16：00
休憩12：00～13：30
料金 一般 四〇〇円
高齢者・障害者 二〇〇円

■ 中高年齢者の運動教室
● 膝痛改善コース
5月7・14日
一月（二回継続）
一〇〇〇円
● 健康維持コース・健康増進コース
4月3・10・17・24日
5月9・16・23・30日
一月（四回継続）
二〇〇〇円
● ボール体操コース
4月14・21日
一月（二回分）
一〇〇〇円

■ 申込先 ふれあい会館 ☎333－4656

駅伝優勝を祝し祝い金

▣桂坂教育後援会▣

既報のとおり、桂坂小学校が「大文字駅伝大会」において見事、念願の優勝を果たしました。

陸上クラブは日頃、互いに励まし合いながら早朝と放課後の練習を重ね、当日はチームワークを一番に信頼しあってタスキをつないで栄冠をかち得たのですから、私たち桂坂学区の住民としても、心身ともにたくましく育つその姿を誇らしく思います。

桂坂教育後援会では、翌日さっそく、会長、副会長が小学校を訪れ、学校長の角垣先生にお会いし、その快挙を称えるとともに、お祝いとして金一封をお贈りしました。

運動クラブの育成に活用していただけるものと思います。報告いたします。

桂坂小のクラブ紹介

▣

小学校には、陸上クラブの他にいくつか運動クラブがあり、活発に活動しています。

広報では、今回の駅伝優勝を機に、運動クラブの活動状況をお知らせしたいと思い、卒業を控えての忙しい中、クラブごとに一文草してもらいました。

その活動状況、練習や試合の汗や涙から学びえたことなど、素直に記された感想文は、今号と次号（5月発行）とに分けて掲載しますので、ご覧ください。

ソフトボールの一年間の思い出

6年　川山　周平

ぼくは、6年の1学期に木下彰人君にさそわれて、いっしょに入部しました。

最初はソフトボールになれていなかったけど、何回か練習するうちにボールになれてきました。土井先生に「キャッチャーやってみるか」と言われて、ぼくは喜んでひきうけました。木下君もピッチャーに選ばれて、木下・川山のバッテリーが完成しました。初めての試合で、上里小学校と対戦し、一勝二敗でした。負けこしたけど、すごくいい経験でした。

ソフトボール部には、どんどん新入部員が入って来て、今では一五人ぐらいです。そして大きな大会で、朱雀第七小学校、紫竹小学校と戦いました。勝つ自信はあったけど、負けてしまいました。ぼくは、これをきっかけに、もっと真剣に練習していかなければならないと思い、今でも、あの試合を思い出してがんばって練習しています。

もうぼくたちは卒業式を間近にひかえ、ソフトの試合もちょっとしか残っていません。後の試合を全勝で終わらせたいです。

ぼくたち6年が引退しても、次の6年生は夏の大会の優勝を目指し、がんばって練習して、「桂坂のソフトって強いよな」と言われるようなチームにしていってほしいと思います。

「陸上」で学んだこと

6年　島田耕太郎

ぼくは三年間も「陸上」で走った。三年間、走った中で、いろいろなことがわかった。感謝すること、そしてやりきることの良さ、大切さ。どれも自分に生かせることだし、大切だ。

感謝することは、力になる。走っているとき、ありがとうと心の中で言っていると、自然につらいこととでもがんばれる。自然にがんばれるのだから、つねに何かに感謝できればいいと思う。またその気持ちが大切だと思う。

やりきったり、がまんするのは、なにをするのにも必要だと思う。がまんしないと何もできず、すぐ投げてしまう。やりきらないと中途はんぱで終わる。そういうことを知り、それでは終わりたくないと思った。

「勝つまでやったる！」と思った。それで、やりきること、がまんすることの大切さがわかった。

将来は、「陸上」で学んだことを生かしたい。「陸上」で学んだことを忘れないでいきたい。

春のミニコンサート

桂坂地域女性会　細田　英子

3月15日、雨にもかかわらず、桂坂小学校のミーティングルームは、開演間近には椅子をどんどん追加しなくてはならないほどのお客様で一杯になりました。ご夫婦や、男性のお客様も多数おいでいただきました。

東桂坂在住の古川えつ子さんのヴァイオリン、京都芸大で同期だった中野万里子さんのピアノのデュオはベートーベンのソナタ第5番『春』から始まりました。ソナタというのは単にヴァイオリンが独奏してピアノが伴奏するというものではなく、全くのデュエットなんですね。ヴァイオリンが伴奏することもあれば、同時に違う言葉で歌ったり、お互いにメロディをあげたり、もらったり、かけ合ったりする楽しさがありました。

続いてパラディスの『シシリアーノ』に、マスネの『タイスの瞑想曲』と、さすが一四年デュオを組んでいるだけあり、息のあったすばらしい演奏が続きました。また、古川さんの夢見るようなやさしい話ぶりの曲の紹介に、こちらまで心がほんわかと温かくさせていただきました。

楽しいひとときはあっという間に過ぎていきます。皆様の拍手に応えてのアンコール曲・ラフマニノフの『ヴォカリーズ』は、年老いてから孫娘に話しかけているように作られたとか。「私にも恋に心ときめかせた時代があったんだよ。あの時もう少し勇気があったら…」と。

しっとりと大人のムードのコンサートでした。春の一日をこんな風に過ごせるなんて…音楽って本当にいいものですね。

□□□「地域」が育み　子どもたちが学ぶ□□□□

桂坂には保育所、小学校、中学校、そして養護学校など四つの教育施設があり、学区創設来「地域」との交流は好ましい形で行われてきました。

山の手倶楽部の方は「子どもの方から与えらるだけでなく、一緒に何かをすることがとてもうれしい」といわれ、子どもさんの方は、例えば「自分たちでいろいろ調べたけれど、話を聞かせてもらって、ますますよくわかった」という――微笑ましい交流の場がありありと想い浮かびます。

「地域」と子どもに関する話題です、二つ。

大枝中学2年生の「チャレンジ体験」

公立学校では、平成14年度より「総合的な学習の時間」が設けられ、完全実施されました。

大枝中学校では二年前から試行的にいくつかの取組みがなされてきましたが、平成14年度には、一年を三期に分け、学年ごとにそれぞれのテーマを決めて「総合学習の時間」が動きだしました。その一つ、「生き方探究　チャレンジ体験」と取組んだ中学2年のみなさんの楽しい体験報告書が五つのクラスごとにまとめられました。

▣

この「Futuretime」に備えた「チャレンジ体験」は洛西地区はもちろん、地域を超える、七〇あまりの事業所の協力を得て、1月の三日間、実施されました。

学校生活とはまた異なった場所や時間の中での学習は貴重な体験となったようで、たとえば、足や肩や腕の疲れから、ふだんとは違う筋肉の使い方を思い知らされたり、接客の際には心をこめて大声で挨拶するようにいわれ初めはとまどったものの、お客さんからあたたかい声で応じられた時の感動におののいたり、今まで外の世界のものであった仕事から体験を通して、その厳しさ・楽しさを知ることができたようです。

今回の試みは、今後の生徒さんの生き方、ものの考え方、目の前に起こる様々な事象に臨機応変に、しかも的確に対応できる力などに結実して、今後に活かされていくことでしょうし、事業所の方が親身になって教えられて、生徒さんの心を動かした一つ一つがまた「自分たちは地域の中で育まれているんだ」ということの実感できる、よい契機ともなったことでしょう。

次号でその体験談を何篇か紹介する予定です。

桂坂小と山の手倶楽部

元気をもらった▣ふれあい交流▣

桂坂小学校PTAの広報紙『かつらざか』最新号に「元気をもらったふれあい交流――たくさんの知恵をありがとう」というタイトルで、桂坂小学校の生徒さんと山の手倶楽部の皆さんとの「交流」が特集されていました。抄録します。

〈私たちの桂坂小学校では平成4年度より、年間を通じて山の手倶楽部の方々との交流を行っており、今年で一一年になります。

「おじいちゃん、おばあちゃんの知恵や、昔の遊びなどを教えてもらう」ということで、子供たちが交流の場をもっています。

初めの頃は、ふれあい遊びだけでしたが、好評だったので、だんだん機会がふえていき、今ではたくさんのお年よりの方に学校に来ていただき、学年ごとにいろいろなことを行っています〉

- ●一年間の交流内容
- ●昔の道具の使い方
- ●囲碁・将棋・カルタ　ケン玉など、昔からある遊び
- ●風呂敷とは（使い方など）
- ●なかよく一緒に遊ぶ（全校児童対象の（ふれあい遊びの会））
- ●運動会の応援

終わりは、「うけつがれる心」と題して、次のことばで結ばれています。

〈このように、昔の遊びを通して、世代をこえて交流することは、子どもたちにとっても、お年よりにとっても、大切なことではないでしょうか。「地域の子どもは地域で育てる」ことにも大きくつながっていくように思います。

また、核家族がふえ、ふだん、お年よりと接することのない子どもたちも、山手倶楽部のみなさんとふれあう中で、お年よりを大切にし、また、うやまう心も育まれるのではないかと思います。

これからも、温かいふれあいの輪がどんどん広がればいいですね〉